



EUROPEAN BRIDGE LEAGUE

2008 EBL TDセミナー  
2007規則

30<sup>th</sup> – 31<sup>st</sup> May 2008  
San Giusto Canavese (TO), Italy

第 2 7 条 ( 不十分なビッド )

by Max BAVIN

### 【訳者注】

以下は、ヨーロッパブリッジ連盟が加盟国のディレクターを対象に開催した新規則セミナーの第27条についての解説です。Max BavinはWBFの主任ディレクターで2007年規則起草委員会の委員です。

## 第27条（不十分なビッド）

### A) 前書き

トーナメントディレクターの観点から第27条はおそらく最も重要な規則です。不十分なビッドの処理は1997年規則の時よりも疑いなくはるかに難しくなりました。

第27条B項(a)は「コンベンショナル」ではなく、（「コンベンショナル」という言葉の定義はなくなったため）「アーティフィシャル」という言葉を使っていることを除けば旧規則と同じです。定義は別のトピックとして討議しますが、マイナースーツの2枚以下のオープンは依然として「アーティフィシャル」ビッドと解釈することに注意して下さい。

1997年規則第27条の意味について疑問や混乱がある場合に備えて、第27条B項1(a)の下で起こる調整スコアの裁定の背後にある原則について討議します。

第27条B項1(b)は完全に新しいものです。この条項の運用の実例をいくつか討議することにします。とりあえず次を覚えておいて下さい：

「新しいコール（言い換えたビッド）に当てはまるすべてのハンドが古いコール（不十分なビッド）にも当てはまるだろうか？」

もし「イエス」なら第27条B項1(b)に該当します。もし「ノー」なら該当しません。事実上第27条B項1(a)とほとんど同じですが、この条項の下で起こる調整スコアの裁定の背後にある原則についても討議します

ディレクターが来る前に不十分なビッドを訂正すると2007年規則ではどうなるかあきらかになったことにも注意して下さい - 新しい（訳注：言い換えた）コールが成立してさらに修正が科されることがあります。

### B) 推奨するトーナメントディレクターの手順

1. パートナーに不当な情報[U I]を伝えるかもしれないので（第16条B項参照）、反則者にどんなつもりだったかを示すようなことをテーブルで言わないよう指示する。
2. 左手の対戦相手[L H O]に、受け入れなかった場合は反則者には次の選択肢があることを説明して不十分なビッド[I B]を受け入れることも拒絶することもできることを知らせる：

- 反則者が同じでのミーネーションで一番低い合法的なビッドをした場合、どちらのコールもアーティフィシヤルでなければオークションはこれ以上の調整なしで継続する。
  - I Bと同じ意味を持つかより詳細な意味を持つ合法的なコール（この合法的なコールには、不十分なビッドの中にあると考えられる意味がすべて含まれている）をした場合、オークションはこれ以上の調整なしで継続する。
  - これ以外は、反則者はダブルとリダブルを除く任意の合法的なコールを行うことができるが、パートナーは最後までパスする。
3. 反則者が不十分なビッドをしたとき何をしようとしていたかLHOに知る権利はない（推量する権利はある）。しかし、対戦相手のシステムの詳細を知る権利（補足質問をすることができる）と規則を知る権利（トーナメントディレクター[TD]に規則の説明を求めることができる）がある。
  4. IBが受け入れられなかった場合、TDは不十分なビッドをしたとき反則者が何をするつもりだったか確認する必要がある。必然的に残り3人のプレイヤーには理由がわからないようにするためテーブルから離れて確認する必要がある。その後TDは（テーブルから離れたままで）反則者に選択肢、つまりあるとすればどのコールがこれ以上の制限なしにオークションを継続できるかなどを知らせる。第27条B項1(b)の下で訂正を認める場合、プレイヤーのシステムについて詳細な（またおそらく技術的な）討議と分析が関係してくるだろう。その後反則者はテーブルに戻ってコールを選び、TDはパートナーが最後までパスするかについて総括して説明する。
  5. 反則側がディフェンダーになると第26条のリードペナルティがつくことがある。第27条B項1(a)と第27条B項1(b)の場合も第26条を参照して下さい[この条項についてはWBF法規委員会による再検討があるかもしれない]
  6. プレイ終了時に、TDはスコアを調整する理由があるかを調べる必要がある。一般的に（第16条B項タイプのUIがなければ）、IBが受け入れられれば問題はない。また一般的に（第23条が該当しなければ）、パートナーが最後までパスした場合も問題はない。パートナーが最後までパスの場合、「偶然の幸運(rub of the green)」や「単についていた」ことは完全に容認できる - 第27条D項は適用しないし、考えるべきでもない。

### C) 第27条B項1(b)で認められるコールの言い直し

「新しいコール（言い換えたビッド）に当てはまるすべてのハンドが古いコール（不十分なビッド）にも当てはまるだろうか？」

例

1 .	N	E	S
	1 D	1 S	1 H

Sはオーバーコールを見なかった - 1Dに1Hとレスポンスするつもりだった。1Hレスポンスは5-15 HCPと4+ハートをしめす。

a) Sは、通常丁度4枚のハートと5-15 HCPを示しますが、スペードのストッパーがなくハートも4枚ないバランスしたゲームフォーシングのハンドを示すこともあるネガティブダブルに言い換えることはできますか？

できません。ダブルするいくつかのハンド、つまり4枚ハートのないバランスしたゲームフォーシングハンドではそもそも1Hレスポンスしません。

b) Sは、5+のハートと8-11HCPを示す2Dトランスファーに言い換えることはできますか？  
 できます。言い換えたコールは最初のコールよりより詳細な意味を持っています。2Dとビッドするすべてのハンドは1Hとレスポンスします。

c) Sは、4+のハートと11-17HCPを示す2Dトランスファーに言い換えることはできますか？  
 できません。ビッドは確かにより詳細ですが、16-17HCPの可能性は1Hレスポンスには含まれていません。

2.                    N                    S  
                          2NT(20-22)    2C

Sは1NT(15-17)に対して2Cステイマンをレスポンスしたつもりだった。

a) Sは、3Cもたまたまステイマンだとすれば3Cに言い換えることはできますか？  
 できません。3Cステイマンをビッドするハンドのいくつかは2Cステイマンをビッドしません。例えば、4枚メジャーの4-7点のバランスしたハンドです。

b) 最初から3Cとレスポンスするつもりだったのですが、Sが混乱していたり間違っただけで違うカードを抜き出したりした場合はどうなりますか？  
 このケースはできます（実際いくつかの状況では言い換えは第25条A項で認められることがありますが、この例はそのような状況ではない、言い直しは考える間を置かずに行われなかった、と考えることにします）。  
 もちろんTDはこれが実際に起きたことであることを確認する必要があります。

## D) 第27条D項 - 第27条B項1(a)と第27条B項1(b)から起こる調整スコア

### 1. 前書き

- 最初は1997年規則から

【訳者注】原文にある1997年規則第27条の引用部分は割愛しました。

- 不確かかもしれないので、WBF L Cの旧規則説明を掲載します：

第27条B項1(b)で「選定(assign)」は「裁定(award)」と解釈する；結果として調整スコアは状況により人為的または選定になる。【WBF L C議事録 2002-08-27#1】

不十分なビッドがなければこのボードのその結果は得られず、また非反則側がそれによって被害を受けたと思われるときは第27条B項1(b)で調整スコアを与える。

【WBF L C議事録 2002-08-27#1、改定 2002-08-30#2】

- 新規則（2007）は同じことを言おうとしています：

非反則側が損害を受けた場合

本条B項1を適用した後ディレクターが、プレイ終了時に反則から得た助けがなければボードの結果は違った可能性が十分あり、また非反則側が損害を受けた（第12条B項1参照）と判断すれば、調整スコアを与えるものとする。この調整においてディレクターは不十分なビッドが起こらなければこのボードで得られたであろう結果に可能な限り近づけるようにする。

## 2. ミスビッドと（パートナーが）察知したミスビッド

第27条B項1(a)と第27条B項1(b)は、不十分なビッドをしたプレイヤーがパートナーにパスを強いるコールを選んだ場合、このプレイヤーのハンドは新しく選んだビッドと実際合致するという仮定に基づいています。

しかし、必ずしもそうとは限りません。例えば、パートナーにパスを強いるコールを選んで最終コントラクトをギャンブルするよりオークションが続くようにするために多少ミスビッドすることは完全にブリッジの常識に適っています。

また不十分なビッドをしたプレイヤーは「ミスビッド」しているかもしれないとパートナーが推測し、この可能性に備える（「察知する」）ことも完全にブリッジの常識に適っています。

これはまったく合法です - これは第16条A項1(d)に含まれる一般的なブリッジの知識です。

これが第27条D項の存在理由です。プレイヤーがミスビッドしたり、そのパートナーがこれに備えようとしたりした場合（実際ミスビッドがあったか否かとは無関係に）、第27条D項を適用することがあります。

しかし、第27条D項の調整は第16条タイプの調整とは完全に違うことに注意して下さい。第27条D項の調整は最初から不十分なビッドが起こらなかったときのありそうなボードの結果に戻すことです。

第12条C項で「加重平均」調整スコアを認めているところでは、調整スコアを加重平均することができ、また実際のテーブルでの結果を含めることもできます（これは第16条で調整する場合は認められないことです）。

### 例

次の有名な例があります：

N	E	S
1H	P	1H

Sはオープニングビッド見ないで、自分が1Hオープンしようとしてしました（もちろんNはこれを知ることにはできませんが、推論することはできます）。

Sはコールを2Hに言い換え、これは第27条B項1(a)で認められます。

Nは完全なミニマムハンドにも関わらず4Hをビッドしてももちろんメイクしました。

これはまったく合法です。Sはやりたければミスビッドする権利があり、Nはこの可能性に備える権利があります。しかし、この行動のどちらも第27条D項の適用を検討する理由になります。

普通のオークションは間違いなく1H - 4H、またはディレードゲームレイズやフィットを示すコンベンショナルなレスポンスなどを經由して4Hになります。

従ってこのケースでスコアを調整する必要はありません - 完全に普通の結果です。

調整するケースは、N/Sが2レベルから始まるすばらしいキュービッドでビッドが難しいスラムに到達した場合です。

しかし、その場合でも「普通」のオークション経過でスラムに到達するパーセンテージを含めて調整スコアを加重平均することもあります（加重平均を管轄団体が認めていれば）。

#### 最後の例

W	N
2S(ウィーク)	1NT

Nは12-14の1NTをオープンするつもりでした。2NTオーバーコールは普通15-18です；Nはいずれにせよ2NTのビッドを選びました。

これは許されるでしょうか？ - はい

Sは15-18と考えなければならぬのでしょうか？ - いいえ（第16条タイプのUIがなければ好きなように考えることができます）。

スコアが調整されることはありますか - はい；これはSがどんな行動を取るかとは無関係です。